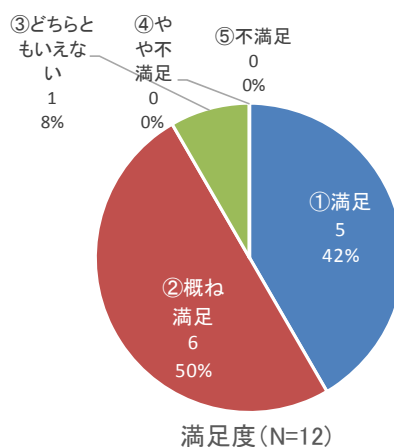
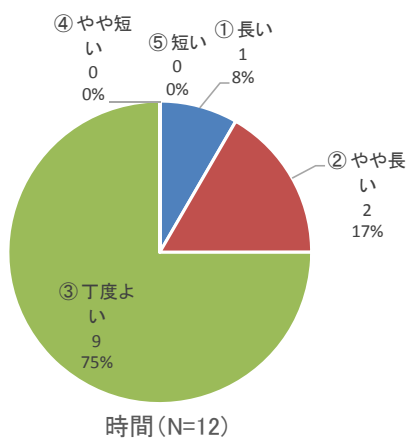


平成 27 年度大学評価担当者集会 (H27. 8. 27)
 分科会「IR上級者セッション (上級)」アンケート結果

アンケートは、参加者 15 人 (うちスタッフ 2 名) 中 12 人から回答があった。分科会の時間については約四分の三が「ちょうどよい」と回答した。企画の満足度はグラフに示す通り、42%が「満足」と回答した。その理由として、フレームワーク、分析枠組みを用いた整理を通じて、問題・課題が明確になったことを挙げる参加者が複数いた。一方で、とりあげた理論について、やや難解で消化不足になったという意見があった。

(藤井 [名古屋大])



アンケート結果の詳細 (分科会関連分)

id	属性	時間	満足度	理由
1	私	②やや長い	③どちらともいえない	理論面中心でしたので、仲々あたまに入りにくかったです。でも、そこそこは面白かったです。
2	—	③丁度よい	②概ね満足	
3	国	③丁度よい	②概ね満足	ゴミ箱モデルでは、複数の解が存在する場合が考えられる。
4	国	③丁度よい	②概ね満足	本学の事例が少なく申し訳ありませんでした。最後の意見交換で行った同一の問題を皆で議論する形は良かったと思います。
5	国	③丁度よい	②概ね満足	4象限モデルはよくわかりました。ゴミ箱モデルは、少し消化不足です。
6	—	②やや長い	②概ね満足	基本的に時間に余裕があったので、スケジュールが長かったのかと思います。フレームワークの考え方が現状の分析につながったので、よくわかりました。概ね満足です。
7	国	③丁度よい	②概ね満足	分析枠組みのワークは効果的でした。
8	国	③丁度よい	①満足	モデルを活用することによって、自分が問題意識をもっている部分が明確になりました。とても有意義な時間となりました。
9	国	③丁度よい	①満足	
10	国	①長い	①満足	フレームワーク思考で、課題がどこにあるのが明確になりました。
11	国	③丁度よい	①満足	セッション内容のボリュームと時間がフィットしているので
12	国	③丁度よい	①満足	いろいろ考えさせられた。

所属 国：国立大学 公：公立大学 私：私立大学 関：関係機関 —：記入無し